midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

８月号の１枚：集会場近くで咲いていた大輪のヤマユリ

［巻頭言］当会の活動の現況と特徴

当会の活動は森林整備だけではない

当会活動は全体的に見ておよそ、75%が森林現場活動、25%が都市部に於いての森林広報活動（イベント、森林シンポジウム参加、森林行政との折衝など）、森林ネットワーク活動です。

森林活動の内容は、地揃え（下草刈り）、間伐、枝打ち、少しだが植林、木工作品研究、動植物調査、炎天下じゃ楽でないお花畑作り、お楽しみ的に春：梅の木の下のお茶会、音楽会など多様な活動を展開している。毎年６月の神奈川県後援の「緑のダム体験学校」は好評だ。

毎回、60から80人～100人を越す参加者の内半数は、16歳～25歳の青年層だ。彼らの成長の速さには驚かされる。高校卒業後は林学を専攻する学生もいて、学卒者で林業家を目指す者も出ている。５年ほど前からグループ参加（望星高校、学生連合、生命の森、みんなの森の会）と団体参加の傾向にある。夫々に活動の特徴があり、それがこの森の活動の多様性を倍加している。

雨でも休まずの13年以上の「継続の実績」は社会的な評価・信用に繋がって地域林業行政に多少の影響を出し始めている。特に“環境・経済・社会の調和”を標榜する、国際FSC（森林管理協議会）の認証林が森林フイールドである事は、活動の信用を裏付ける事となっている.

国の林業政策の中心である「林地団地化・集約施業」に民間NPOが取り組んでいる事も注目を浴びている。国際化傾向も他にない特徴だ。昨年はオックスフォード大学院生が、日本の森林NPO活動を研究対象として来日し１カ月ほど当会を足場に研究した。今年８月は、中国の青少年が「若柳嵐山の森」で森林研修するが恒例化の予定である。大学の先生方の参加も多く、当会活動のレベルアップに直結している。これから先、何が飛び出すか楽しみな活動となっている。

石村黄仁（本会、代表理事）

来月の定例活動

2010.08

８月　１日（第一日曜日）；森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円

８月１５日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動、主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費４００円
お昼休みに井伊会員が自慢の“詩吟”をご披露する。

[新任ご挨拶]

当会は1998年11月20日に活動を開始して今月で、13年10カ月目に入ります。この間、活動の基本理念を「森林破壊と云う負の遺産を子孫に残してはならない」とし、森林現場の行動規範を「持続的な森林経営は、“環境・経済が循環する地域社会の活性化”」としました。これを具現化するために当会の行動モットーに沿って〝休まず・急がず・無理せず・楽しく・ボチボチと・・・“と活動を継続しています。

台風・雨風の日などは、相模湖駅前・桂北公民館でビデオによる環境問題研修会、例えば、アル・ゴア元米副大統領のビデオ［不都合な真実］、「白神山マタギの生活」などを観賞し討議したり、時には活動を巡って楽しく大激論を交わす事などもあります。

兎も角、月2回の定例活動日は、一度も休まず活動を継続してきました。臨時の森林広報イベントを加えれば、活動は優に500回を超えています。

一回ごとの活動は、刷毛で掃いた程の効果もないでしょうが、500回の活動の集積は、それなりの成果となって社会に発言力を持つようになったと感じます。まさしく活動の初期・月尾嘉男先生(元総務省審議官、現東大名誉教授）の「世論を動かせる活動になってこそ！」の励ましによります．勿論、励ましの成果は、地域の方々、様々なアドバイスを下さる先生方、県林政からのアドバイス、日々活動の森仲間が行動を共にしてくれた仲間たちがいたからこそです。

少しの森林整備技術と少しの森林の在り方を考える力を会得した今、今後は社会に向けてどのように働きかけて行けるかが問われる団体になっています。

森仲間の力に支えてもらいながら、代表と言う大役を如何に効果的な成果に結び付けるか、いささか任の重い役割だと感じています。当会は初代：鈴木重彦氏、二代：永井宏一氏のご指導良きによって活動は発展してきました。私事、力の及ぶ処まで務めさせて頂きます。引き続き皆様のご指導をお願い申し上げます。

石村黄仁（本会、代表理事）

[定例活動]小原本陣の森

7月4日（第一日曜日）

7月に入り、セミの鳴き声が響く夏も近づいてきました。深緑に包まれ、森の中では色々な音が聞こえます。

今回Forest Nova☆は、高橋林業さんが行う間伐の作業を拝見しました。プロが行う作業を間近で拝見する機会は今まで無かったため、今回の見学は驚きの連続でした。１本１本に掛ける伐倒の時間も早く、自分や周囲の安全確保にも気配りをされていました。また、１日に１００本以上も伐倒を行う時もあるそうで、プロが行う作業の凄さを思い知らされました。作業の中で、かかり木の処理や伐倒時のコツなどの技術や安全確保などを拝見し勉強になった他、これからの作業に向けて良い刺激となりました。

午後は経路の整備と土留めを行いました。経路の整備は、草が茂っていたり倒木があるため歩きづらく、怪我や事故の危険性もあるため、経路内に侵入している樹木や草本の処理を行いました。

今回、経路を横切るようにして倒れていた木があったのですが、この倒木の処理に時間がかかってしまい迅速な作業が出来ませんでした。土留めは、斜面に無造作に倒れていた木を使い等高線に沿って行いました。急な斜面だったのでスリングを使って木を引っ張り上げました。頑張った末に、土留めの作業はほぼ完了となりました。

本格的な夏はこれからにもかかわらず、非常に蒸し暑く汗が止まりませんでした。熱中症等に気を配りつつ今後の作業も頑張っていきます。
今回の作業は以上です。

松村勇佑（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森
7月18日（第三日曜日）

“夏草ジャングル・山百合”

梅雨明けの翌日、晴天の夏日・活動日！。見事な山ユリが夏を謳歌している森の中。朝礼では熱中対策と虫刺され注意。今日も学生や先生方の若者でムンムン、それに来月の中国青少年視察団の関係者も加わり森は、インターナショナル。
参加者：高校生30名、ノバ学生11名、みんなの森５名、生命の森８名、中国視察関係者７名
一般参加18名、計79名

・森林整備班：景観整備は、相模湖と富士山を望める絶景ポイント、崖沿いの作業で〝絶叫！“でしたと整備班の角田さん。午後は牽引機チルホール倒木をノバ学生に指導。夏は森の下草もジャングルで足もとも見づらいなかでの作業に、女子学生がキビキビと“山ユリのような勇ましい動き！”

・高校生は、沢山のリーダー指導者に恵まれ、「森の調査方法」の実習。猛暑にめげず、先生方に励まされ、「若者は、森の資源、初参加の1年生、よくやった！」日大教授・桜井先生にお褒めの言葉を頂いた。東海大の田中教授は、初参加。森林と観光が研究課題との事。
・「生命の森宣言・東京」は、斎藤指導員に連れられて、担当の「整備Ａ地区施業計画作り」に森にもぐり込む。

欠損木処理をする森林整備班

望星の森では今年度もSPP採択

・お花畑・造園班は、じりじりと照りつける太陽を背に夏草取り。熱中症に成らないよう水分を充分に取りながら奮戦。全員、無事作業を完了したときには、もうバテバテ。
・8月に来る中国青少年森林視察の先験隊の丁(テイ)さんは、「4000万ヘクタールの森林作りを目指す中国には身近に森がなく草原と砂漠で、子供たちにとって良い経験・教育になります」との事でした。先遣隊は、丸茂会員・内野会員の案内で「若柳嵐山の森」の巡回を楽しんでいたようです。

昼食は、夏バテに負けぬ具タップリのキムチスープと白菜・赤カブなどのサラダ。余りに美しい炊事班の心づくしに食べざかりに学生は「もう、おなかパンパン」とか言ってお炊事班を喜こばせました。

こんな塩梅で午後の作業も元気一杯、定刻の３時半には、何の事故もなく終礼も楽しく進行、充実して森を下りました。帰路、「作業後の生ビールは最高！」と云う森仲間と「小原本陣の森・作業路研究」の東京大学院・林学研究員（酒井秀夫教授指導）10名とも駅前カドヤで合流して大いに森を語り合いました。

伊藤小夜子（本会、会員）

[小原の森・調査報告]

7月18日（日）

7月18日、「小原の森」の路網開設の可能性を考えるため、東京大学森林利用学研究室のメンバー9名で第一回目の調査に入りました。今回の調査目的は、「GIS(地理情報システム)上で解析した地形データや林相図をもとに現地を見て回り、路網開設が可能な場所を選定する」ことでした。

午前中は、林道沿いと調査対象地西側の地形や林相を確認するため、林道から小原の森中央を貫く歩道を通り、昨年度森林整備を行った付近に出て、その後孫山親山頂をまわり、孫山山頂を目指すコースをとりました。午後は、北側と東側の調査対象地境界付近を中心に調査を行う予定でしたが、途中で道を間違えたため予定していた調査をこなす事ができませんでした。最終的には、小原の森の遥か北にある栃谷坂沢線林道に出てしまい、そこから帰還しました。

そのようなわけで、今回の調査では路網開設場所の選定には至らず、調査メンバーに小原の森の概要を把握してもらうに留まりました。メンバーがどのように感じたかについて2点ほど紹介します。
[1]急傾斜地帯で尾根や谷が入り組んでおり、非常に迷いやすい上に道を入れにくい地形である。
[2]林木が非常に込み合っている林相が多く、風雪害が心配である。

私としても、毎月通っている場所であるにもかかわらず迷ってしまい、山の恐ろしさを再確認させられました。今後も様々な調査を行い小原の森を良い方向に導いていきたいと考えています。

田中正幸（東京大学）

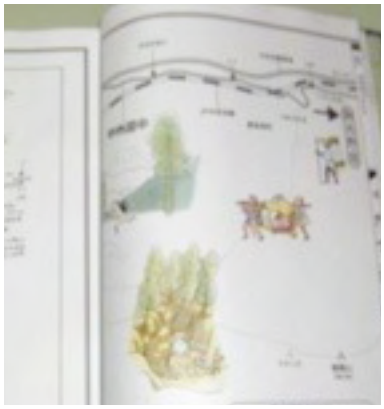
孫山頭にて

[報告１]
甲州古道ぷろじぇくと・まとめ草子

神奈川県立図書館、相模原市立図書館：蔵書になりました。

2003年に相模湖町から「古道道標」を2本受注した事で「小仏峠～笹子峠：約60km」の古道調査プロジェクトチームが発足しました。神奈川県の資金支援を受けた事もあって、約8年間の調査結果を冊子にして報告しました。

踏査内容の掘り下げもさりながら、手作りの冊子の出来栄えは見事なため、県立と相模原市立図書館に持ち込んだところ、歴史を後世に伝える貴重な資料だと蔵書してくれる事になりました。



まとめ草子は事務局でもご覧頂けます。

石村黄仁（本会、代表理事）

[報告２]
桂北小学校2年生と沢遊び

6月21日（月）

6月21日(月)の午前中、私たちは桂北小学校2年生の課外授業を担当させていただきました。「地域を知ること」が2年生の生活科の1年間の目的となっています。今回は、嵐山で遊ぶことを通して身近にいる生き物を発見し、地域の自然を知ってもらおうという企画になりました。

沢に下りた2年生たちは、こうやって生き物を探すんだよと教えてあげても最初は嫌がって土を触ろうとはせず、見つけたヤゴを虫かごの中に入れるだけでも大騒ぎになっていました。しかし、みんなだんだんと夢中になり始め、最後は多くの子が何かいないかと土をかき分けていました。ヤゴやサワガニ、カエルの卵が見つかり、これらは持ち帰ってクラスで飼うことになりました。

沢を探検

森の中では、自分が面白いと思った植物をスケッチしてもらいました。観察アイテム「虫眼鏡」を渡すと、2年生たちはこちらの説明を聞き終わる前から周りをきょろきょろして何かないかと探していました。目に付きやすい変わった植物はとても人気でしたが、中には葉っぱを太陽に透かすと白い点が沢山見えることを発見したすごい子もいました。

最後にみんなでそろって振り返りを行い、お昼前には小学校に到着しました。Forest Nova☆は10年振りくらいの給食をいただき、昼休みまでいさせてもらいました。昼休みには、嵐山から持ち帰ったものを観察したいと2年生たちが率先して理科室へ向かっていきました。2年生たちの自主的に調べようとする姿勢と、そういった環境を作っている小学校に驚きました。

葉っぱを観察

2年生たちは私たちが何も教えなくても楽しそうに遊んでいましたが、普段は沢や森の中で遊ぶこともないようだったので、その体験を手伝うことができてよかったと思います。

神宮理沙（Forest Nova☆）

[報告３]
「森づくり・モノづくり」コンテストの入賞作品展示を行っています。

7月1日（木）～

八王子市「あったかホール」1Fエコプラザにて第3回「間伐材」と「FSC認証材」を生かした「森づくり・モノづくり」コンテストの入賞作品29点が展示されました。

入賞作品展示会場の様子

ンター」にて公開展示予定です。相模原市内の小学校4年生の子ども達の力作も展示されます。ぜひ夢のある作品をご覧ください。

（淵上　美紀子、森林再生事業促進実行委員会）

相模湖町の森から切り出される「間伐材」や「FSC認証材」を経済的なサイクルに組み入れ、森を守り生かすために実施している「デザインコンテスト」も、 回を重ね700点余りの作品が全国から寄せられています。

委員会では受賞されたみなさんの作品を公開展示して、「森づくり・モノづくり」に関心を持っていただき、「木を使うことは森を守る」ことを発信していきたいと考えています。

また当コンテストの目的である商品化をすすめ、森にお金を返す支援活動にも力を入れていきたいと考えています。現在受賞された2作品を試作中ですが、「FSC認証材」のラベルの付いた製品がたくさん誕生することを願っています。

9月からは相模原市の「環境情報セ

[事務局からのお知らせ、お願い]

現在、年会費は3000円でお願いしています。NPOが増えて助成金確保が難しくなって会の運営が難しくなっています。９月より、これを4000円にお願い致します。尚、いままでは毎月のニュースレターを郵送していますが、本会ウェブサイトのみで閲覧していただける方は年会費を据え置かせていただきます（特に依頼がない場合は郵送はいたしません）宜しくご協力、お願いたします。

参加にあたって：

持ち物について

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ